

4

機器の拡張について

本章ではパソコン本体にオプションカードやメモリカードなどを取り付ける方法について説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	作業を始める前に	92
2	LAN の接続	94
3	プリンタの接続	103
4	マイク（別売り）の接続	107
5	スピーカ（別売り）の接続	108
6	本体カバーの取りはずし、取り付け	109
7	フロントパネルシャーシの移動	112
8	オプションカード	114
9	増設メモリカード	119
10	内蔵バッテリーの交換	124

1 作業を始める前に



お願い

・システムの拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のある方（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われた方）を対象としております。システム拡張の経験のない方、難しいと思われる方はお買いあげの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧ください。お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

作業前の注意事項

湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行なってください。

温度範囲は 10 ~ 35 、湿度範囲は 20 ~ 80%Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。

必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行なってください。注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行なってください。

各手順は、必ず正しい順序で行うようにしてください。

取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上など）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。

必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け、取りはずし作業を行なってください。

作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。

内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

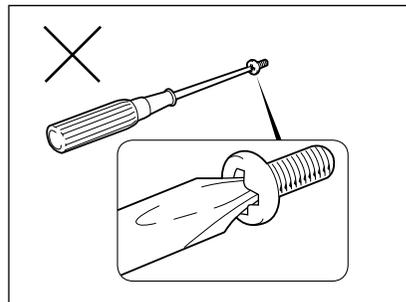
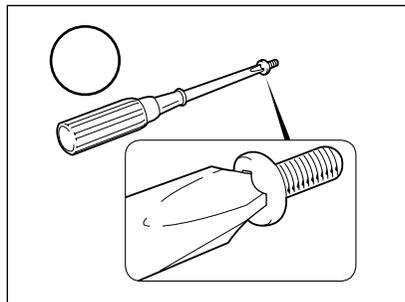
取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。

ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧ください。お近くのサービスステーションまたは、お買いあげの販売店にご相談ください。

オプションカードには鋭い突起があります。手を傷つけないようにしてください。

コネクタの接続、オプションカードの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。

ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。電源コードの接続は、アース線、プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、プラグ、アース線の順に行なってください。



注意

- ・この章で説明されている「6 節 本体カバーの取りはずし、取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体背面に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切りケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、本体の電源コードを抜いて1分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところがありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋をしてください。



お願い

- ・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

● 作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ + (プラス) ドライバ
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

● オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。

☞ 設定について

☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」、『各オプションに付属の説明書』

② LAN の接続

本装置には、Fast Ethernet LAN (100BASE-TX) Ethernet LAN (10BASE-T) に対応した LAN が内蔵されています。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項および技術的な内容を説明します。

注意 ・Windows 95 で LAN を使用するときは、必ず BIOS セットアップの [Advanced] - [Power Management Setup] の [Suspend Time Out] を [Disabled] に設定しておいてください。サスペンドに移行すると LAN 接続が切断されます。この場合、システムの再起動が必要です。

☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

① 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100M ビット/秒) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

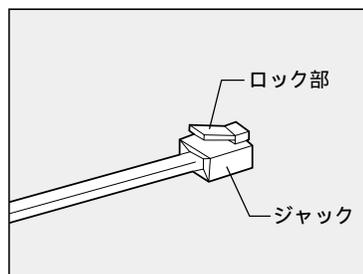
10BASE-T 規格 (10M ビット/秒) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

② LAN ケーブルの接続



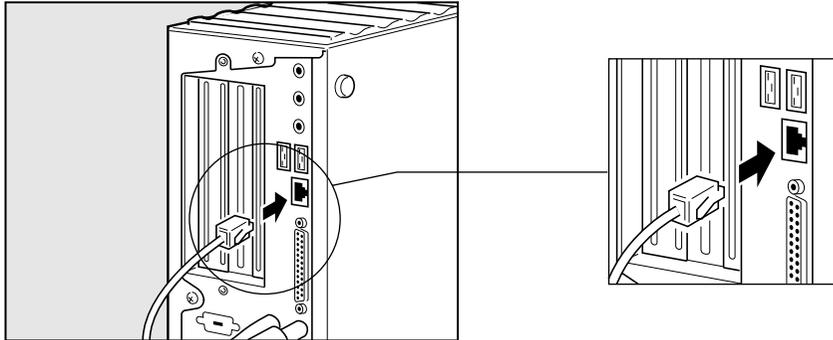
お願い

・LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、ジャックの部分を持って行なってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 Windows 95 をご使用の場合は、BIOS セットアップの [Advanced] - [Power Management Setup] の [Suspend Time Out] を [Disabled] に設定する
☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす

- 5** LANケーブルのジャックを本体背面のLANコネクタに差し込む
パチンと音がするまで差し込んでください。



- 6** LANケーブルのもう一方のジャックをHUB（ハブ）のコネクタに差し込む
HUB（ハブ）の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 テクニカル情報

Fast Ethernet ケーブル

100BASE-TX

100BASE-TXでは、2組のツイストペア・イーサネット（TPE）ケーブルによる100Mbpsの転送をサポートしており、カテゴリ5（CAT5）のケーブルを使用します。100BASE-TXのセグメント長は、最大100メートルに制限されています。

Fast Ethernet HUB（ハブ）

さまざまなFast Ethernet仕様をサポートするHUBが次々に発表されています。これらのHUBは大きく分けて、シェアードHUBとスイッチングHUBの2つのタイプがあります。EQUIUMシリーズのLANインタフェースでは、どちらのタイプのHUBでも使用できます。

シェアードHUB（ハブ）

シェアードHUBを使用しているネットワーク環境では、全ポートが固定の帯域幅（データ容量）を共有しています。100MbpsのシェアードHUBの場合、ハブ上の全ノードが100Mbpsの帯域幅を共有しなければなりません。ハブに新たなステーションが追加されると、個々のステーションが使用できる有効帯域幅は減少します。シェアードHUBは、全車が1レーンを共有する単一レーンの高速道路にたとえられます。高速道路上に車が増えると、トラフィックは混雑し、各車の移動に要する時間は増大します。

シェアードHUBの場合、全ノードが同一の転送速度（10Mbpsまたは100Mbps）で動作しなければなりません。Fast Ethernet HUBの場合、10BASE-Tリピータの10倍の100Mbpsの帯域幅を提供します。

スイッチング HUB (ハブ)

スイッチング HUB を使用しているネットワーク環境では、各ポートに固定の専用帯域幅が割り当てられます。高速道路の例で言うと、各車が他の車と共有しない独自のレーンを持つこととなります。

スイッチング HUB では、データは送信先ステーションにつながるポートにだけ送信されます。ネットワークの帯域幅は全ステーションに共有されているのではなく、HUB に接続された個々のステーションがそれぞれのネットワークの全帯域幅を使用することができます。このためスイッチングハブではネットワークで使用できる帯域幅の合計が効果的に増大するので、パフォーマンスが大きく向上します。

スイッチング HUB では、一部のノードを 10Mbps で使用し、他のノードを 100Mbps で使用できるものもあります。スイッチングハブは洗練された設計により、このようなパフォーマンス上の利点を持ちますが、1 接続あたりの費用は一般にシェアード HUB より高価になります。

4 Windows 98 / 95 のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。購入時は既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows 98 または 95 の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



注意 ・購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows 98 または 95 のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows 98 または 95 のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

● ネットワークの設定

画面の表示例は Windows 98 の画面です。Windows 95 の場合は異なります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]- [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワークの設定] タブをクリックし、変更を行う
コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(注) 画面は一例です。

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- ネットワーククライアント ほかのコンピュータに接続する機能です。
- プロトコル コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。
- アダプタ コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。
- サービス このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、ほかのコンピュータから使えるようにします。

4 [識別情報] (Windows 95 の場合は [ユーザー情報]) タブをクリックし、コンピュータ名、ワークグループをネットワーク管理者の指示に従い、設定する



(注) 画面は一例です。



注意

- ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 (Default、Default_Wg) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



- 5 [アクセスの制御] (Windows 95 の場合は [アクセス権の管理]) タブをクリックし、変更を行う

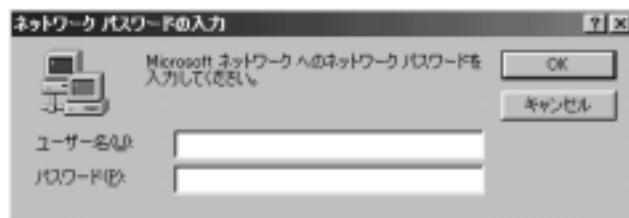


ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

- 6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

● 起動時のパスワードの入力

- 1 パソコンの電源を入れる
- 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する
ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります (ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど)。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

メモ

5 Windows 2000 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



注意 ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ローカルエリア接続] アイコンにマウスのポインタを合わせて右クリックする
- 4 プロパティを選択する
- 5 ネットワーク接続の設定を行う
セットアップ時に設定した構成になっています。
本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

アダプタ : Intel 8255X-based PCI Ethernet Adapter (10/100)
クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント
サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
プロトコル : インターネットプロトコル (TCP/IP)

● ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 2 [システム] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワーク ID] タブを選択する
- 4 ネットワーク ID とプロパティの設定を行う
コンピュータ名、ドメイン/ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。
変更する場合はここで再設定してください。

6 Windows NT のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



注意 ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワークの設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

● ネットワークの設定

- 1 アドミニストレータ権限でログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 4 識別、サービス、プロトコル、アダプタ、バインドの設定を行う
 詳細は付属の『ファーストステップガイド Microsoft Windows NT Workstation』の「ネットワークへの接続」の章をご覧ください。
 なお、出荷時のネットワークの構成は次のようになっています。

アダプタ	: Intel 8255X-based PCI Ethernet Adapter (10/100)
プロトコル	: NetBEUI
識別	: WORKGROUP
コンピュータ名	: 初期セットアップ時に入力した名前

プロトコルなどを追加する場合「Windows NT Workstation Ver4.0 Disc1 ラベルの付いた CD-ROM を挿入してください」というダイアログボックスが表示される場合があります。

この場合は、「ファイルのコピー」ダイアログボックスの「ファイルのコピー元 (C :)」に「C:¥i386」と入力して [OK] ボタンを押してください。



注意 ・TCP/IP プロトコルなどを追加した場合には、設定完了後、Windows NT Service Pack6 をインストールしてください。

☞ Service Pack6 のインストールについて

☞ 「付録 4-2-Service Pack6 のインストールについて」

● 起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する
ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

メモ

③ プリンタの接続

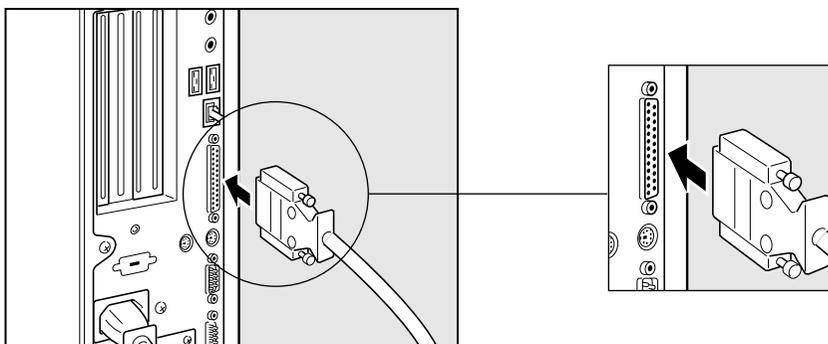
① プリンタの接続



メモ

・プリンタの接続はプリンタによって異なります。詳しくはプリンタに付属の説明書をご覧ください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 プリンタケーブルを本体背面の平行コネクタ  に差し込む
コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタケーブルに固定用ネジがあるときは手またはドライバなどでしっかり回して固定してください。



- 5 もう一方のプリンタケーブルをプリンタ側コネクタに差し込む
コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタ側のコネクタに金具がついている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。

② プリンタ設定について

ここでは本体に接続したプリンタを使用可能にする設定方法を説明します。

画面は、Windows 98 を例にして説明します。

☞ 詳細について ☞ 『ご使用のプリンタに付属の説明書』

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定(S)]-[プリンタ(P)] をクリックする

次の [プリンタ] の設定画面が表示されます。



- 2 [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックする

次の [プリンタの追加ウィザード] が表示されます。

[次へ] ボタンをクリックすると次の設定に移ります。以降の設定作業は、画面に表示される質問に答えながら作業を進めます。

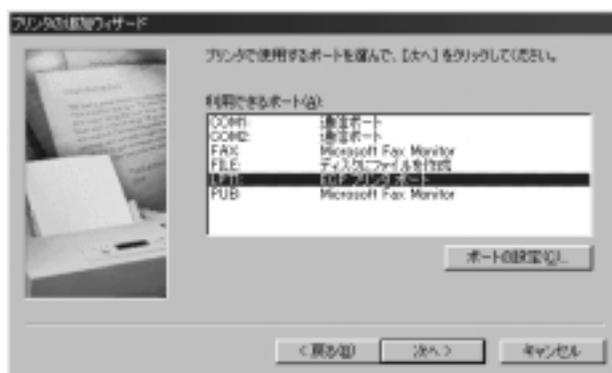


プリンタ設定作業の途中で、次の [プリンタの追加ウィザード] が表示されます。
 ここでは、プリンタの製造元とプリンタ名を選択して [次へ] ボタンをクリックします。
 一覧にない場合は、プリンタの製造元から配給されたプリンタドライバのインストールディスクをセットし、[ディスク使用 (H)] ボタンをクリックします。



(注) 画面は一例です。

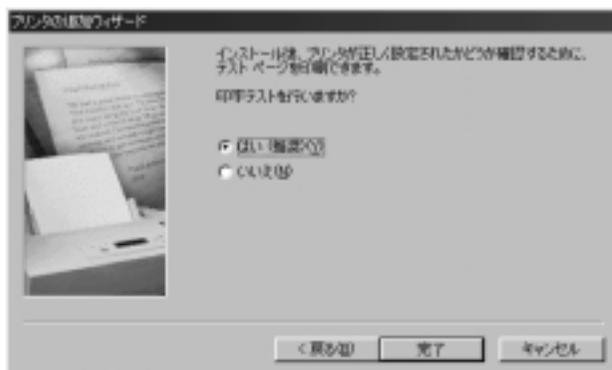
プリンタ設定作業の途中で、次の [プリンタの追加ウィザード] が表示されます。
 ここでは利用するポートを選択します。
 プリンタが本体のプリンタコネクタと接続されているときは、[LPT1 : プリンタポート] を選択して [次へ] ボタンをクリックしてください。



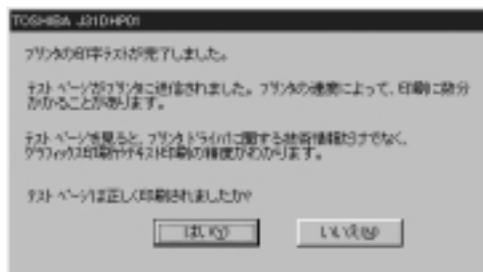
(注) 画面は一例です。

プリンタ設定作業の途中で、次の [プリンタの追加ウィザード] が表示されます。
 ここではプリンタ機能が正常かどうかを確認するために、テストページを印刷するかを選択します。

印刷する場合は、[はい (推奨) (Y)] をチェックし、しない場合は [いいえ] をチェックして [完了] ボタンをクリックしてください。



[はい (推奨) (Y)] をチェックした場合、しばらくすると「プリンタの印字テストが完了しました」というメッセージの画面が表示されます。テストページが正しく印刷されているときは、[はい] ボタンをクリックしてください。印刷結果に異常がある場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。『Windows のヘルプ』が表示されますので、質問に答えながら設定を変更してください。また、本体とプリンタが正しく接続されているかも確認してください。



(注) 画面は一例です。

[プリンタ] の設定画面に戻り、新規に登録されたプリンタのアイコンが表示されます。これでプリンタの設定作業は終了です。

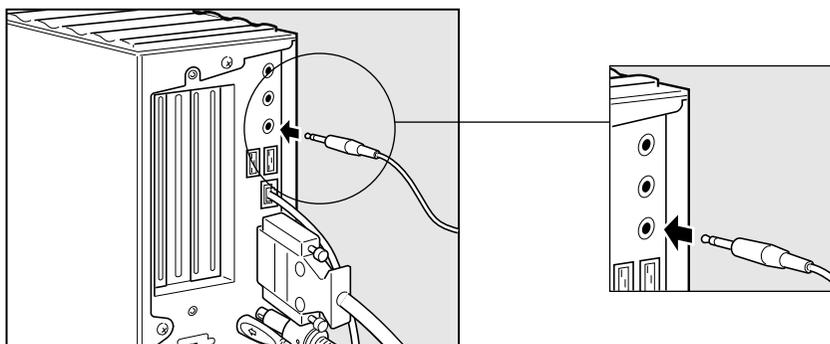


(注) 画面は一例です。

4 マイク（別売り）の接続

本製品では、マイク（別売り）を接続できます。使用可能なマイクは、コンデンサマイクロホンのミニジャックタイプ（3.5 ）です。

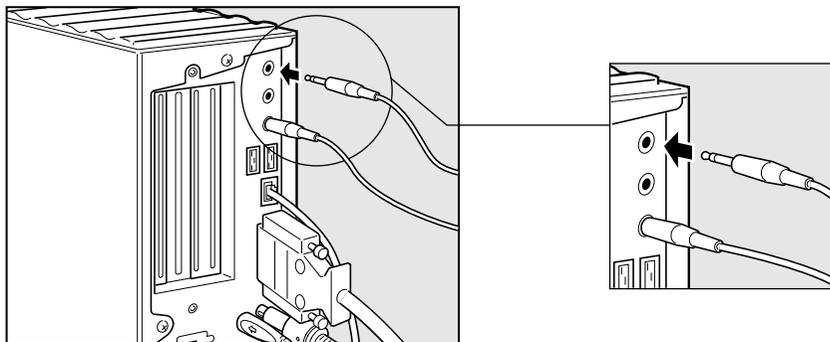
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 マイクのプラグを本体背面のマイク端子  に差し込む
しっかりと奥まで差し込んでください。



5 スピーカ（別売り）の接続

本製品では、アンプ付きのスピーカ（別売り）を接続できます。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 スピーカのプラグを本体背面の LINE OUT 端子 (Ⓛ) に差し込む
しっかりと奥まで差し込んでください。



6 本体カバーの取りはずし、取り付け



- 注意** ・オプション装着などのほかは、カバーを開けないでください。故障の原因となる場合があります。
- ・本体カバー裏側のアルミ板金などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

システムを拡張する場合、さまざまなオプションの取り付け位置は本体内部であるため、本体カバーを取りはずすことが必要です。

先に本体カバーの取りはずし方、取り付け方をまとめて説明します。

それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては 8 節より説明します。

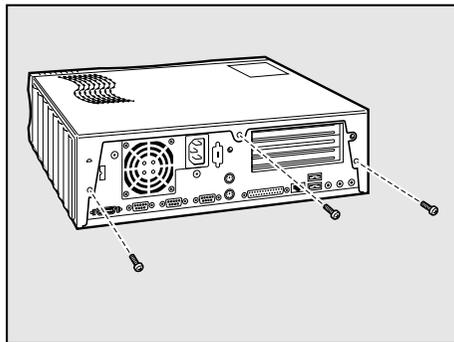
1 本体カバーの取りはずし

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずし、本体背面に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

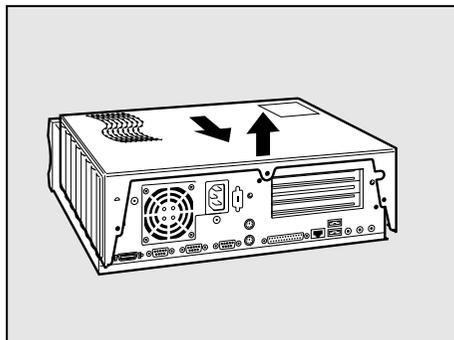


- 注意** ・電源を切っただけでは、メインボードは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差し等を行うと、故障の原因となります。
- 必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

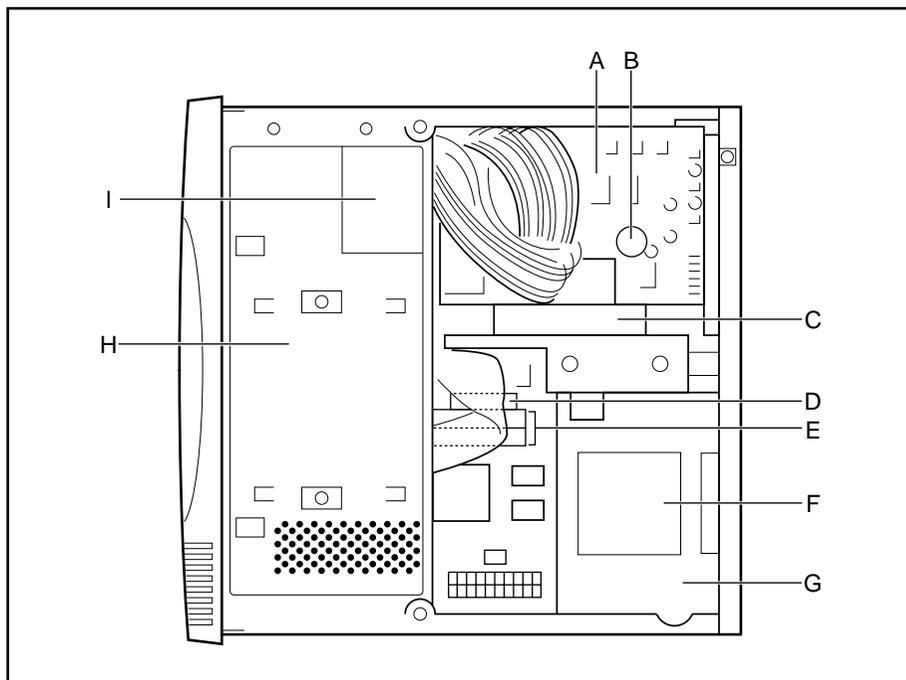
- 5 本体背面のネジ 3 本をはずす



- 6 本体カバーを後方へずらし、まっすぐ上に持ち上げて取りはずす



② 本体カバーを取りはずしたところ



B, C, D, E, Hはユーザ作業エリアです。

A. メインボード

B. バッテリ

C. 拡張スロット

D. FDD コネクタ

E. メモリスロット

F. 電源警告ラベル

(電源ユニットのカバーは、はずさないでください。内部には高電圧部分があり、感電・火災・故障のおそれがあります。)

G. 電源ユニット

H. フロントパネルシャーシ

I. ケーブル挟み込み・FDD ハーネス注意ラベル

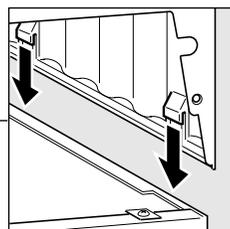
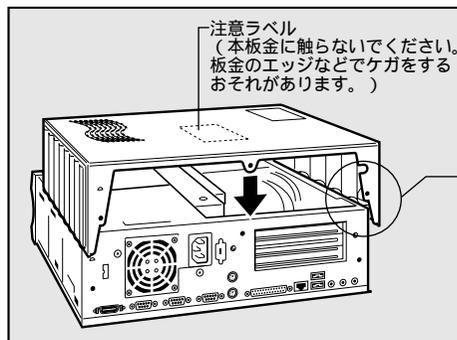


注意 ・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。

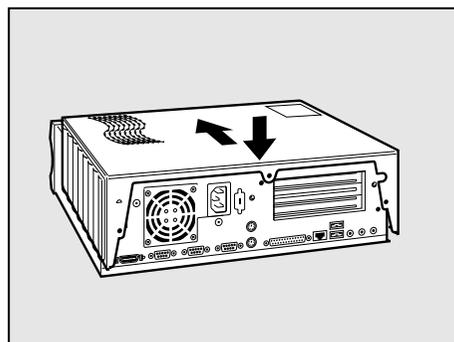
高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。

3 本体カバーの取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体カバーを、本体前面から 2 cm 程度離れた位置に、カバーの左右を開くようにしてのせる

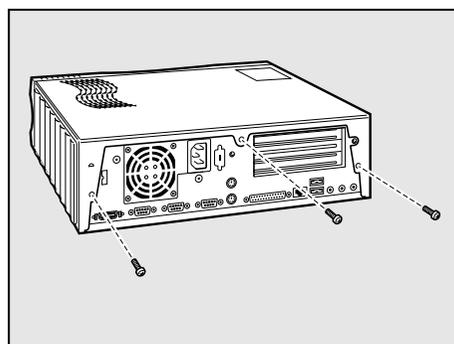


- 4 本体カバーの前側上面をおさえながら、前方にスライドさせる



! 注意 ・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

- 5 本体背面にネジ 3 本を取り付け、固定する



7 フロントパネルシャーシの移動

オプションの取り付けをするときは、取り付けしやすい位置まで、フロントパネルシャーシをスライドさせて移動すると便利です。また、オプションによっては、フロントパネルシャーシを移動しないと取り付けられないものもあります。

先にフロントパネルシャーシの移動方法と、元に戻す方法（取り付け方）をまとめて説明します。

それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

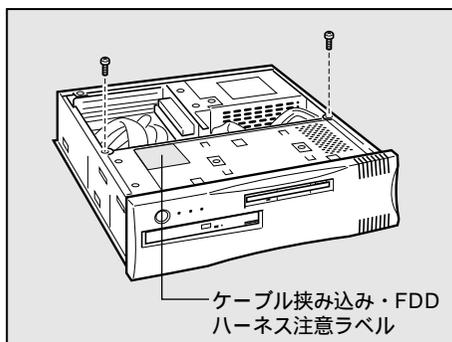
1 フロントパネルシャーシの移動

1 本体カバーを取りはずす

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

2 フロントパネルシャーシを固定しているネジ 2 本をはずす

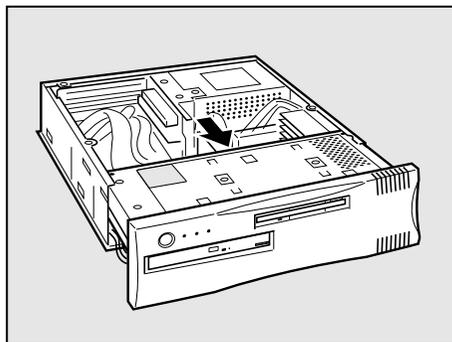
本体カバーと内部ではネジの大きさや長さが違います。どちらのネジが分かるようにしておいてください。



3 フロントパネルシャーシを少し持ち上げて、本体の前面側にスライドさせる

FDD ハーネスがはずれないように注意し、オプションの取り付け、取りはずしがしやすい位置までスライドさせてください。

CPU のヒートシンクに引っかからないように、軽く持ち上げるようにしてスライドさせてください。



注意 ・フロントパネルシャーシには、ケーブルが取り付けられています。ケーブルが傷つかないようにスライドさせてください。ケーブルに傷がつくと、故障の原因になります。
・フロントパネルシャーシをスライドするとき、メインボードの部品を破損しないように気をつけてください。メインボードの部品が破損すると故障します。

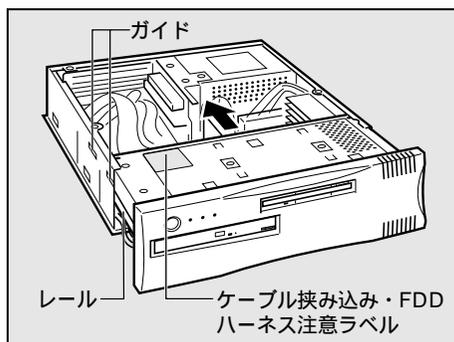
② フロントパネルシャーシの取り付け

1 フロントパネルシャーシをネジ穴が合う位置までスライドさせる

フロントパネルシャーシが本体から抜けた場合は、フロントパネルシャーシの左右のレールが本体のガイドにきちんとおるように取り付けてください。

また、FDD ハーネスがはずれた場合には、接続してください。

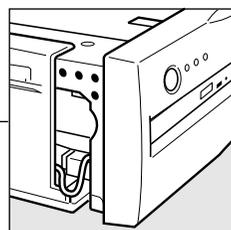
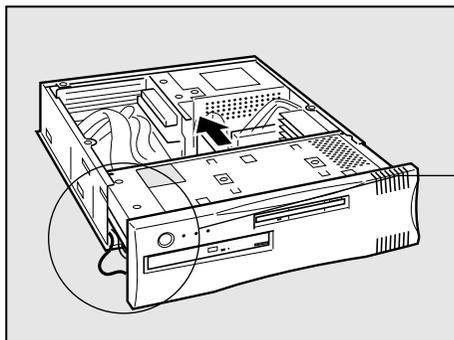
☞「本章 9 増設メモリカード」



注意 ・フロントパネルシャーシをスライドするときメインボードの部品を破損するおそれがあります。フロントパネルシャーシのレールは、必ず本体のガイドにのせ、メインボードの部品を破損しないように気をつけてスライドしてください。メインボードの部品が破損すると故障します。

・フロントパネルシャーシを取り付けるときに、次の位置のケーブルを挟まないようにしてください。

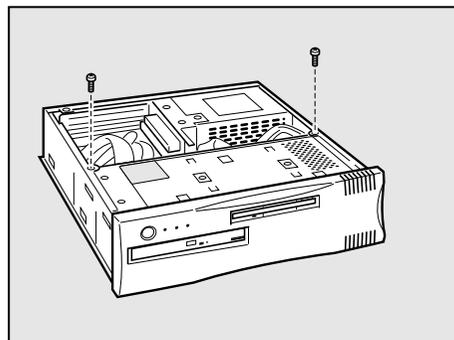
ケーブルに傷がつくと、故障の原因になります。



2 ネジ 2 本を取り付ける

フロントパネルシャーシをスライドさせるときに取りはずしたネジを取り付けてください。

ネジは、本体カバーと内部では大きさや長さが違います。



3 本体カバーを取り付ける

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

⑧ オプションカード

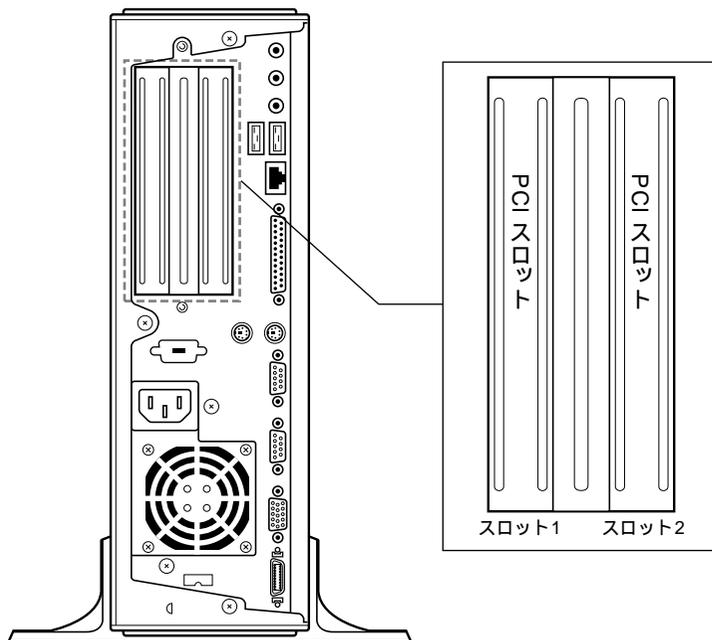


・PC97 規格に対応していないカードは正常に動作しない場合があります。

お願い

① 拡張スロットの位置

本体にはオプションカード用の拡張スロットが合計 2 個用意されています。



注意 ・オプションカードの取り付けに際しては、拡張スロットの電流容量を超えないように注意してください。

☞ 電流容量について

- ☞ 「付録 2-8- PCI スロットの電流容量」
- ☞ 『各オプションカードに付属の説明書』



お願い

・オプションカードは、特に静電気に対して敏感で、その取り扱いには注意が必要です。カードを持つときは、カードの縁を持つようにして、部品や金メッキ部分には触らないようにしてください。保護袋や本体からカードを抜き出したときには、水平で、接地された、静電気の無いところに、部品面を上にして置くようにしてください。カードは、どんな面の上でも、滑らせて移動させないでください。

② オプションカードの外形図

各スロット用のカードの種類と本体に装着可能なカードの外形図を示します。

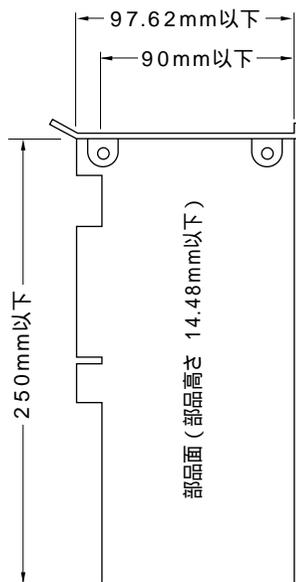


注意 ・接触による事故防止のため高さ制限を守ったカードを使用してください。

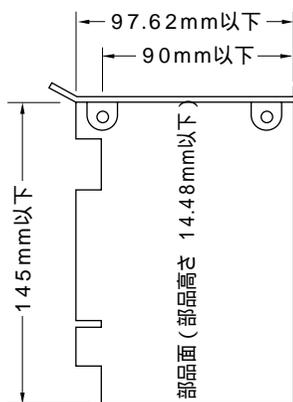


・本体内に装着できる PCI タイプカードは、次に示すサイズ以下のものです。このサイズを超える大きさのカードは取り付けないでください。故障や不具合が発生する場合があります。

● スロット 1 に装着可能なカード



● スロット 2 に装着可能なカード



3 オプションカードの取り付け



お願い

・この作業を行うとき、メインボードや他のボードの部品を損傷しないように注意してください。

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

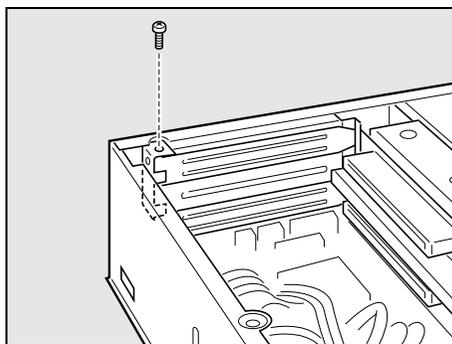
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 フロントパネルシャーシを作業しやすい位置までスライドさせる

FDD ハーネスがはずれない程度にスライドさせてください。

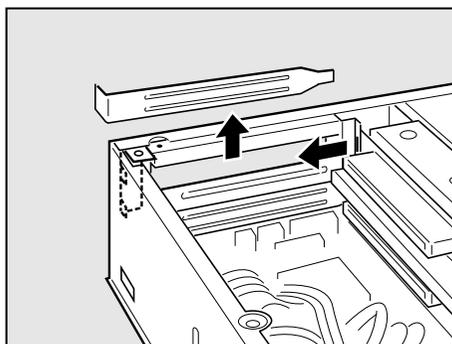
☞ 「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

4 オプションカードパネルを固定しているネジ 1 本をはずす



5 金具を外側に移動し、オプションカードパネルを取りはずす

取りはずしたオプションカードパネルは、大切に保管しておいてください。

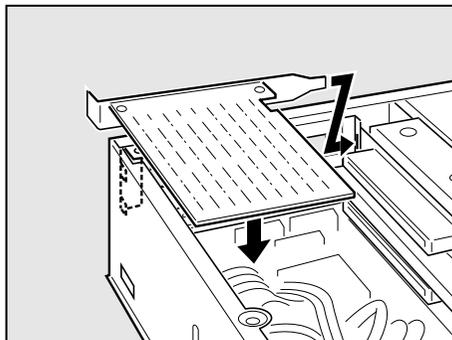


6 保護袋からオプションカードを抜き出し、水平で、接地された、静電気のないところに、部品面を上にして置く

保護袋は再度取りはずしたときのために保管しておいてください。

7 オプションカードに付属の説明書に従って、カードのジャンパやスイッチの設定をする

- 8** カードの上の縁、または上の角のところを持って、図のようにカードをセットする
オプションカードのエッジ（金メッキ部分）を拡張スロットコネクタにしっかり合わせて押し入れます。

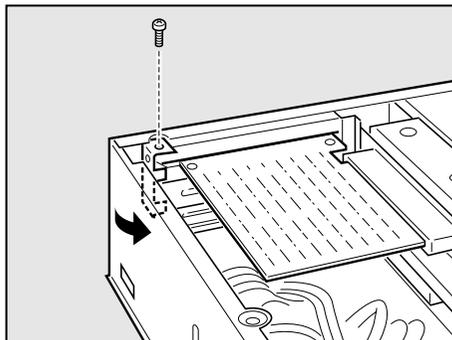


注意 ・オプションカードをセットするときは、本体内部のケーブルを傷つけないようにしてください。
ケーブルに傷がつくと、故障の原因になります。

- 9** コネクタパネルを、オプションカードパネルのあった場所に合わせる

- 10** 金具をカードを固定するようにネジ穴に合わせ、ネジを止める

このパネルが、隣のスロットのカバーやオプションカードに接触しないように気をつけてください。



- 11** 必要があれば取り付けしたオプションカードにケーブル類を接続する

- 12** フロントパネルシャーシを元の位置に戻す

☞ 「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

FDD ハーネスがはずれてしまった場合は接続してください。

☞ 「本章 9 増設メモリカード」

- 13** 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

④ オプションカードの取りはずし

オプションカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 フロントパネルシャーシをスライドさせる
☞ 「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」
- 4 オプションカードに接続されているケーブルがあれば、はずす
再度取り付けるときのために、取りはずしたケーブルは大切に保管しておいてください。
- 5 オプションカードのコネクタパネルと本体を止めている金具のネジをはずす
- 6 オプションカードの縁を持って、カードが拡張スロットコネクタからはずれるまで引き抜く



注意 ・オプションカードには鋭い突起があります。オプションカードを引き抜くときは手を傷つけないよう手袋などで保護してください。
・オプションカードを引き抜くときは、本体内部のケーブルに傷がつかないようにしてください。ケーブルに傷がつくと、故障のおそれがあります。

- 7 オプションカードを、静電気対策された保護袋に入れて保管する
- 8 取りはずしたときに保管してあったオプションカードパネルを取り付けて金具で固定し、ネジ止めする



注意 ・空いたスロットには必ずオプションカードパネルをつけるようにしてください。電磁ノイズと機器の冷却に問題が起きることがあります。

- 9 フロントパネルシャーシを元に戻す
☞ 「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」
- 10 本体カバーを取り付ける
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

9 増設メモリカード



お願い

- ・必ずメモリカードに付属の説明書をお読みになったうえで作業を行なってください。
- ・使用できる増設メモリカードは1枚です。
- ・増設メモリカードは静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリカードを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け/取りはずしを行う場合は、部品やICなどに触れないようにカードの縁を持ってください。
- ・増設メモリカードの取り付けが難しいと思われる方は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください(有償です)。

本装置には次のメモリカードが取り付けられます。

- ・64MB DIMMメモリカード(ECC無し/PC100規格)
- ・128MB DIMMメモリカード(ECC無し/PC100規格)
- ・256MB DIMMメモリカード(ECC無し/PC100規格)

メインボード上の2つのメモリソケットに最大合計512MB(256MB×2)のSDRAMを取り付けることができます(標準メモリとしてメモリカードが1枚~2枚取り付けられています)。

標準メモリのメモリカードを取りはずし、256MBのメモリカードを2枚実装することにより、512MBのメモリ容量にすることができます。

メモリ増設ソケットは、DIMM1がバンク0用、DIMM2がバンク1用です。

メモリ1枚	増設メモリ1枚		
	64MB	128MB	256MB
64MB	128MB	192MB	320MB
128MB	192MB	256MB	384MB
256MB	320MB	384MB	512MB



注意

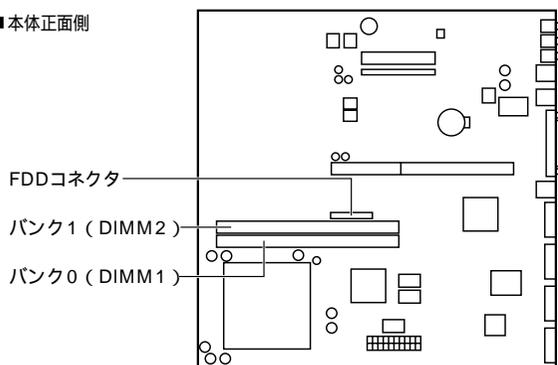
- ・メインボードはシステムバスクロック66MHzですが、メモリは100MHzで動作します。そのため、ECC無し/PC100規格のメモリカードのみ取り付けられます。メモリ増設の際は、本製品に合ったメモリを使用してください。異種のメモリを使用すると正常に動作しない場合があります。
- ・メモリカードを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。



メモ

- ・ECC機能はサポートしていません。

← 本体正面側



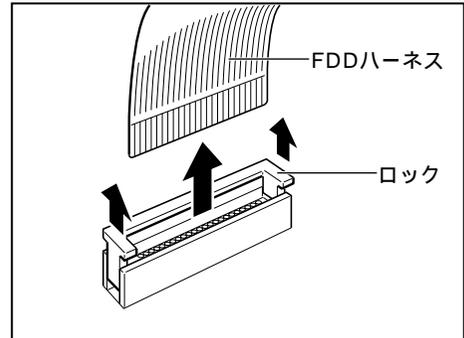
1 増設メモリカードの取り付け

増設メモリカードの取り付け方法について説明します。

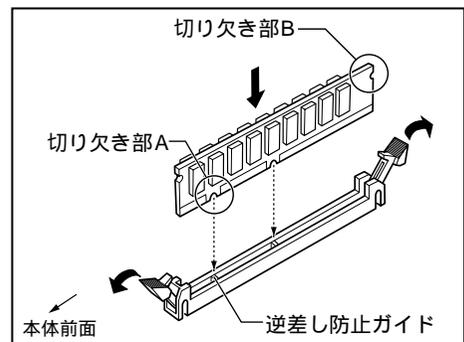


注意 ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱くと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け/取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 フロントパネルシャーシを作業しやすい位置までスライドする
☞ 「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」
- 4 FDD コネクタのロックをはずし、
FDD ハーネスを取りはずす

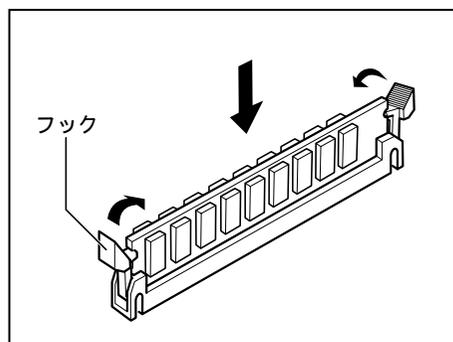


- 5 左右のフックを矢印の方向に倒し、増設メモリカードの切り欠き部 A を、メモリ増設ソケットの逆差し防止ガイドに合わせる



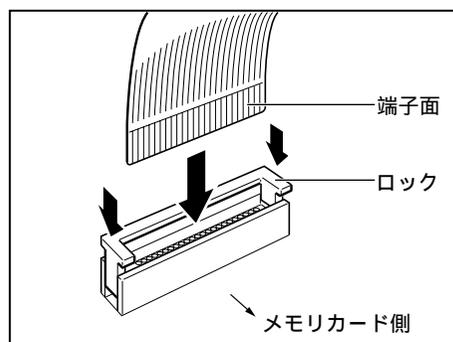
注意 ・増設メモリカードの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。

- 6** 増設メモリカードを真上から押し込む
左右のフックが切り欠き部 B に掛かるように、増設メモリカードをしっかり押し込みます。増設メモリカードが左右のフックで固定されます。
左右のフックが垂直に立ち、増設メモリカードを固定していることを確認してください。



注意 ・増設メモリカードが完全に挿入されていない状態で使用すると、異常動作したり、増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。

- 7** FDD ハーネスを元のコネクタに接続する
FDD ハーネスを FDD コネクタに差し込み、ロックします。
このとき、FDD ハーネスの端子面がメモリカード側にくるように、差し込んでください。

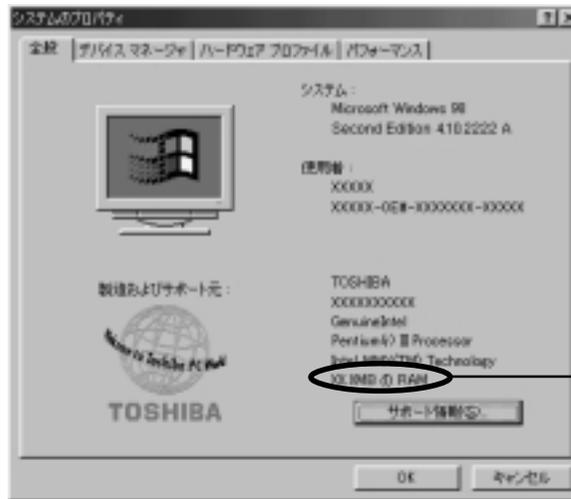


- 8** フロントパネルシャーシを元に戻す
☞ 「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」
- 9** 本体カバーを取り付ける
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

以上で増設メモリカードの取り付けは完了です。
増設したメモリカードが認識されているか、確認してください。

● メモリ増設の確認

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定(S)] をポイントし、[コントロールパネル(C)] をダブルクリックする
[コントロールパネル] 画面が表示されます。
- 2 [システム] アイコンをダブルクリックする
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。



合計のメモリ量が表示されます。

(注) 画面は Windows 98 の場合です。

- 3 [全般](Windows 95 の場合 [情報]) タブの RAM の数値が合計のメモリ量と合っているか確認する

次のような場合、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう一度正しく増設メモリカードの取り付けを行なってください。

- ・電源が入らない
- ・システムが起動しない
- ・数値が合っていない



・VRAMとしてメインメモリを使用しているので、1MB少なく表示されます。

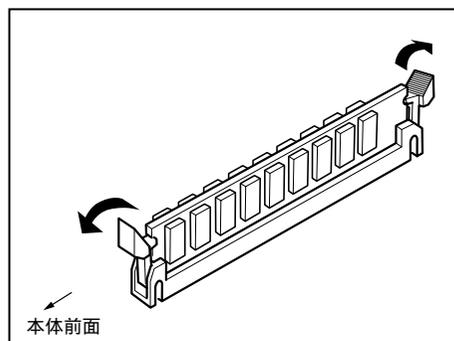
② 増設メモリカードの取りはずし

増設メモリカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

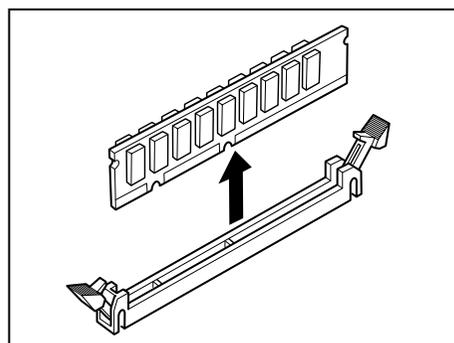


注意 ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱おうと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け/取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 フロントパネルシャーシを作業しやすい位置までスライドさせる
☞ 「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」
- 4 FDD ハーネスをはずす
- 5 ソケットのフックを両側に開く
増設メモリカードが少し出てきます。



- 6 増設メモリカードを真上に引き抜く



- 7 FDD ハーネスを元のコネクタに接続する
- 8 フロントパネルシャーシを元に戻す
☞ 「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」
- 9 本体カバーを取り付ける
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

10 内蔵バッテリーの交換

このバッテリーは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリーを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。

通常の使用環境では、バッテリーの寿命は約 3 年です。

バッテリーが寿命に達すると、次のメッセージが表示されますので手順に従って交換を行なってください。

CMOS Checksum Bad



- 注意** ・本装置の内蔵バッテリーには、リチウム電池が使われています。リチウム電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。
- ・ 取り扱いを誤りますと、発熱、破裂、発火、中毒、やけどなどの危険があります。
 - ・ 充電、電極除去、分解をしない
 - ・ 100 以上の加熱、焼却をしない
 - ・ 電池は水にぬらさない
 - ・ 子供が飲み込んだりしないよう、十分注意する
 - ・ 電池の内部の液がもれたときは、液にふれない
- リチウム電池を廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。



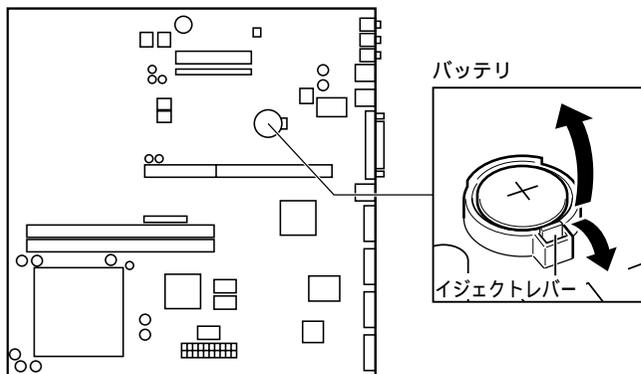
お願い

- ・ 電池を取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、電池を交換した後で設定し直してください。本装置に使用できる内蔵バッテリーはCR2032 リチウム電池です。交換の際は、市販のCR2032 リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。

☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

バッテリーの交換は必ず次の手順に従ってください。

- 1 「作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 フロントパネルシャーシを作業しやすい位置までスライドさせる
☞ 「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」
- 4 イジェクトレバーを図の の方向へ押す
バッテリーが少し浮き上がります。



5 新しいバッテリーの (+) 側を上にして取り付ける



お願い

- ・バッテリーの極性 (+、-) をまちがわないように取り付けてください。
+ 側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

6 フロントパネルシャーシを元に戻す

☞ 「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

7 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」



お願い

- ・再起動後、BIOS セットアップを起動し、再設定してください。
☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

5

BIOS セットアップについて

本章では、BIOS セットアッププログラムの機能と工場出荷時の設定について説明します。

1	BIOS セットアップとは.....	128
2	BIOS を工場出荷時設定に戻すには	131
3	Main メニューの詳細	132
4	Advanced メニューの詳細	134
5	Security メニューの詳細	150
6	Exit メニューの詳細	151
7	工場出荷時の設定値	152

① BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パスワードやハードディスク、周辺機器の使い方などを本体に設定するプログラムのことです。

BIOS セットアップで設定された情報は、CMOS-RAM と呼ばれる特殊なメモリに保存され、電源を切っても設定した内容が消失しないように内蔵バッテリーで保持されます。メモリの増設等の変更をしない限り、1 度 BIOS セットアップを行えば以降は必要ありません。ただし、内蔵バッテリーが消耗または電池交換を行なった場合は、BIOS セットアップは既定値に戻りますので、設定した内容はメモをとるなどして忘れないようにしてください。



メモ

・ BIOS セットアップ画面は英語表示のみです。日本語での、項目 / 説明の表示はありません。

① BIOS セットアップの起動方法

- 1 電源を入れた直後（起動時）に **Delete** キーを押し続ける
セットアップ画面が表示されたら **Delete** キーを離してください。



お願い

・ **Delete** キーの入力が受け付けられるのは、パソコンの電源を入れてから数秒間です。この時間内に **Delete** キーを押し続けないと、システムが起動します。

BIOS セットアップが起動できなかった場合は、通常の終了操作を行なって、パソコン本体の電源を切り、上記の手順 1 をやり直してください。



2 BIOS セットアップの操作方法

● BIOS セットアップ画面について

BIOS セットアップを起動すると Main メニューが表示されます。

白または青文字で表示されている項目は、設定値を変更することができます。
灰色に表示されている項目は、変更できない状態です。
設定値を変更するには、項目上にカーソルを移動して [Enter] キーを押し、[Option]メニューから設定値を選んで [Enter] キーを押します。

現在開いているメニューが白文字で表示されます。メニューを移動するには キーを押します。

選択している項目は白文字で表示されます。

選択している項目の説明が表示されます。

AMI BIOS EASY SETUP UTILITIES Ver. 1.17
(C) 1998 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved

Main Advanced Security Exit

System Data XXX XXX XX XXXX
System Time XX:XX:XX

Floppy Drive A 1.44 MB 3 1/2

Primary IDE Master Auto
Primary IDE Slave Not Installed

Secondary IDE Mater Auto
Secondary IDE Slave Not Installed

Auto-Detect Hard Disks [Enter]

Boot Sector Virus Protection Disabled

Month: Jan - Dec
Day: 01 - 31
Year: 1901 - 2099

Previous Item
Next Item
Select Menu

Esc :Exit Enter :Select F5 :Setup Defaults F6 :Original Values F10 :Save & Exit

[Enter]の表示がある項目は、サブメニューがあることを示します。サブメニューを表示するには、[Enter]キーを押します。サブメニューから1つ前のメニューに戻るには、[Esc]キーを押します。

● 使用するキーについて

BIOS セットアップでは、マウスが使用できないため、キーボード上のキーで、メニューや項目の移動、値の入力などを行います。

ここでは、BIOS セットアップで主に使用するキーについて説明します。

、 キー

1 つ前の項目に移動します。

、 キー

1 つ先の項目に移動します。

キー

左のメニューに移動します。

キー

右のメニューに移動します。

F5 キー

BIOS セットアップのデフォルト値を呼び出します。出荷時の設定値とは異なります。

F6 キー

最後に保存された設定値に戻します。設定を元に戻す場合は Enter キーを、戻さないでセットアップを続ける場合は Esc キーを押します。

Enter キー

メニューで選択したサブメニューを表示します。

F10 キー

Main メニューで現在の設定を保存し (CMOS-RAM に書き込み) BIOS セットアップを終了して、システムを起動します。

F10 キーを押すと「Save current settings and exit」というメッセージが表示されます。設定を保存して終了する場合は Enter キーを、保存しないでセットアップを続ける場合は Esc キーを押します。

Esc キー

Main メニューでは、設定を保存せずに終了する画面が表示されます。サブメニューでは、Main メニューに戻ります。

Esc キーを押すと「Quit without saving changes」というメッセージが表示されます。設定を保存せずに終了する場合は Enter キーを、セットアップを続ける場合は Esc キーを押します。

3 BIOS セットアップの内容

BIOS セットアップは、4 つのメニューとその下に続くサブメニューから構成されています。

Main

日付けや時間、ドライブ類の設定を行います。

Advanced

チップセット、パワーマネージメント、PnP、周辺機器などに関する設定を行います。

Security

管理者、またはユーザのパスワードを設定します。

Exit

設定した内容の保存、呼び出しを行います。

なお、BIOS セットアップの内容は出荷時期により多少異なる場合があります。

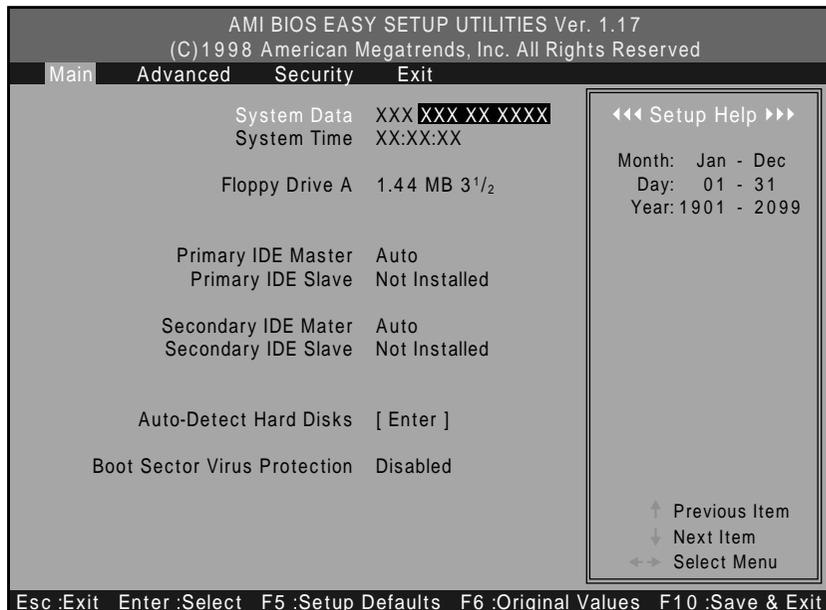


注意 ・BIOS セットアップの内容は、システムが最適に動作するように工場出荷時に設定されています。変更はおすすめしません。
変更が必要な場合は、ユーザサポート窓口にお問い合わせください。

2

BIOS を工場出荷時設定に戻すには

- 1** BIOS セットアップを起動する
☞ BIOS セットアップの起動方法 ☞ 「本章 1-1 BIOS セットアップの起動方法」
- 2** [Exit]メニューより「Load Default Settings」を選択し、**[Enter]**キーを押す
「Load Default settings」と表示されます。
- 3** 各項目を工場出荷時の設定にする
☞ 工場出荷時の設定値 ☞ 「本章 7 工場出荷時の設定値」
- 4** **[F10]**キーを押す
「Save current setting and exit」と表示されます。
- 5** **[Enter]**キーを押す
変更した設定を保存して終了します。



(注)画面は一例です。

Mainメニューは、上記のように表示されます。それぞれの項目は、1つ以上のオプション設定ができます。

この画面では、システムの日付や時間、IDEハードディスク、フロッピーディスクドライブの設定を行います。



それぞれのIDEのセットアップ画面を表示します。

IDE Device Configuration

IDE装置のタイプを設定します。

- Auto 自動設定
- Not Installed 使用しない
- 01 ~ 46 HDDのパラメータを選択することができます
- User HDDパラメータを設定することができます
- CDROM CD-ROM装置
- Floptical フロッピーディスク装置

32Bit Tranfar Mode

IDE装置のタイプを設定します。

- On
- Off

Auto-Detect Hard Disks

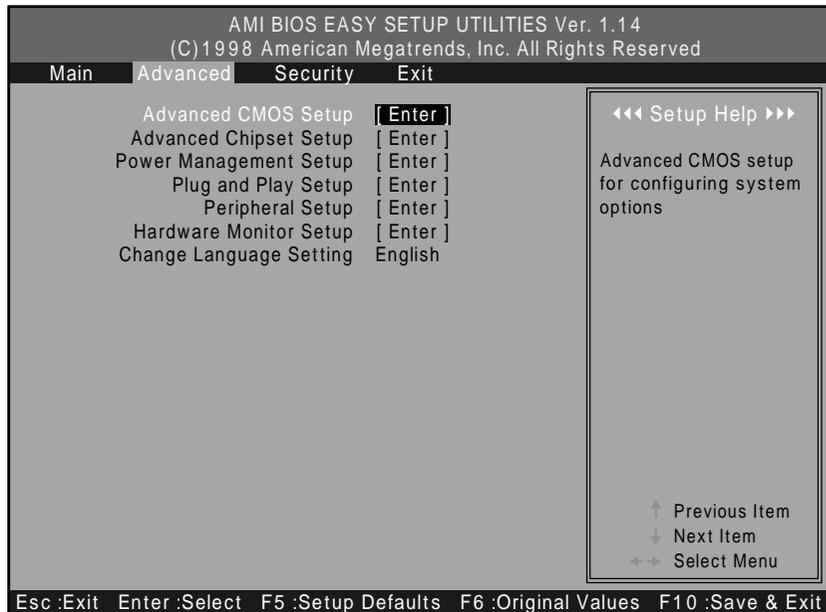
すべてのIDEドライブのパラメーターを自動的に調べます。

Boot Sector Virus Protection

[Enabled] に設定すると、ハードディスクのブートセクタを書き換えるプログラムやウイルスを発見した場合に警告メッセージを表示します。

4

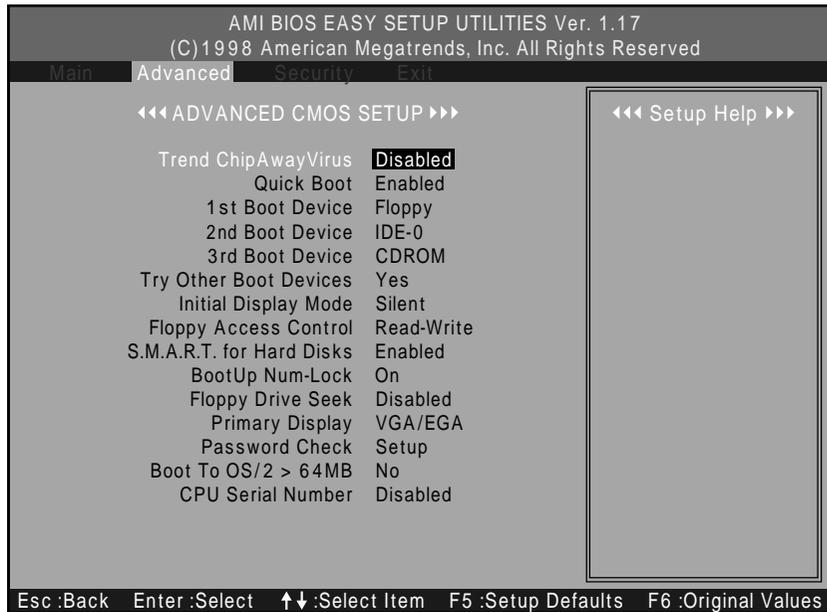
Advanced メニューの詳細



(注)画面は一例です。

Advanced メニューのオプション画面は、この画面で選択すると表示されます。すべての Advanced メニューのオプションがここに記述されています。

● ADVANCED CMOS SETUP



(注)画面は一例です。

Trend ChipAwayVirus

最初に起動するハードディスクのブートセクタにウィルスチェックを行ないます。

- Disabled
- Enabled

Quick Boot

Enabled に設定すると、システムセルフテストの一部を省略し、パソコンを短時間で起動できます。

- Disabled
- Enabled

1st Boot Device

最初に起動するドライブを指定できます。

- Disabled
- IDE-0
- IDE-1
- IDE-2
- IDE-3
- Floppy
- LS-120 / ZIP A:
- ATAPI ZIP C:
- CDROM
- SCSI
- NETWORK

2nd Boot Device

2 番目に起動するドライブを指定できます。

- Disabled
- IDE-0
- IDE-1
- IDE-2
- IDE-3
- Floppy
- LS-120 / ZIP A:
- ATAPI ZIP C:
- CDROM
- SCSI

3rd Boot Device

3 番目に起動するドライブを指定できます。

- Disabled
- IDE-0
- IDE-1
- IDE-2
- IDE-3
- Floppy
- LS-120 / ZIP A:
- ATAPI ZIP C:
- CDROM

Try Other Boot Device

[Yes] を選択すると、選択したすべての起動装置が起動に失敗した場合に他の起動装置から起動します。

[No] を選択すると、選択した装置からのみ起動します。

- Yes
- No

Initial Display Mode

起動中に表示する画面を設定します。

[BIOS] を選択すると、システムの状態を表示します。[Silent] を選択すると、TOSHIBA ロゴ画面を表示します。

- ・ BIOS
- ・ Silent

Floppy Access Control

フロッピーディスクのアクセス方法を設定します。

フロッピーディスク装置を「INT40H」機能経由でアクセスする場合に有効です。

- ・ Read-Write
- ・ Read-Only

S.M.A.R.T. for Hard Disks

"S.M.A.R.T." は、"Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology" を表します。

ハードディスク装置の故障によるいくつかの（すべてではなく）問題を防ぎます。

- ・ Disabled
- ・ Enabled

BootUp Num-Lock

この設定を Off に設定すると、パソコン本体が起動する際に NumLock キーをオフにします。

- ・ On
- ・ Off

Floppy Drive Seek

Enabled に設定すると、起動時にフロッピーディスク装置をシークします。

- ・ Disabled
- ・ Enabled

Primary Display

ディスプレイモニタの種類とディスプレイアダプタを指定します。

- ・ Absent
- ・ VGA/EGA
- ・ CGA45 × 25
- ・ CGA80 × 25
- ・ Mono

Password Check

パソコン本体が起動するたび、もしくは、BIOS のセットアップを実行するたびにパスワードチェックを行なうように設定できます。

Security メニューで、パスワードが設定されている場合のみ有効です。

[Always] を選択すると、パソコンを起動するたびにパスワード入力画面が表示されます。

[Setup] を選択すると、BIOS のセットアップを実行するたびにパスワード入力画面が表示されます。

- Setup
- Always

Boot To OS/2 > 64MB

OS/2 で使用できるようにします。

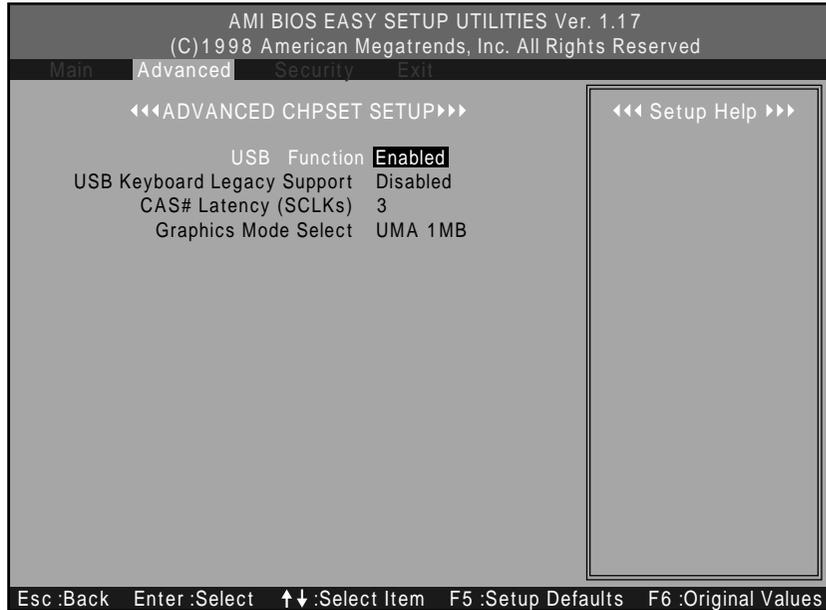
- Yes
- No

CPU Serial Number

CPU が持っているシリアルナンバー機能を有効にすることができます。

- Disabled
- Enabled

● ADVANCED CHIPSET SETUP



(注)画面は一例です。

USB Function

システムの BIOS USB 機能を有効にします。

- Disabled
- Enabled

USB Keyboard Legacy Support

レガシーキーボードの USB サポートを有効にします。

- Disabled
- Enabled

CAS # Latency (SCLKs)

DIMM の CAS 待ち時間を指定します。

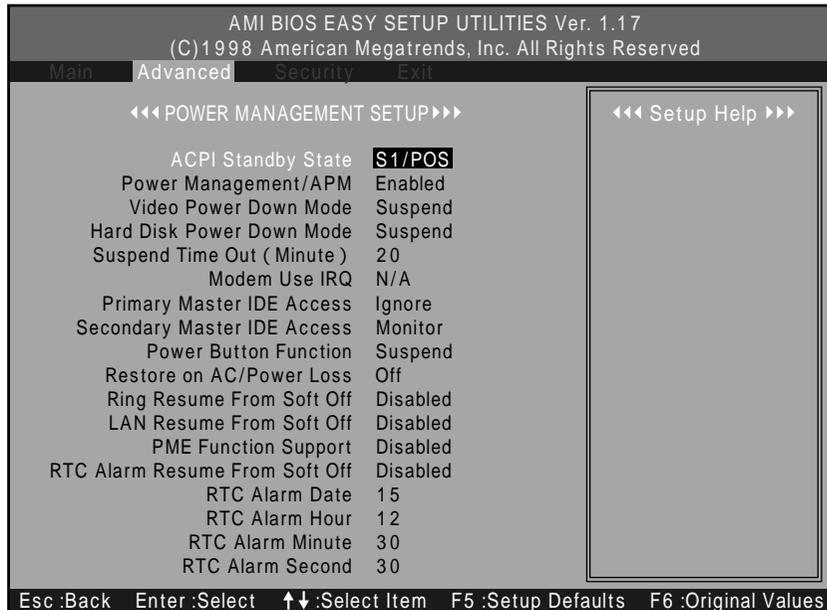
- 3
- 2
- AUTO

Graphics Mode Select

内蔵 VGA が占有するメインメモリを指定します。

- Disabled
- UMA 512KB
- UMA 1MB

POWER MANAGEMENT SETUP



(注)画面は一例です。

ACPI Standby State

ACPI を使って省電力を行う場合に、省電力モードの状態を指定します。

- ・ S1/POS
- ・ S3/STR

Power Management/APM

省電力管理および、APM(Advanced Power Management)を可能にします。

- ・ Enabled
- ・ Disabled

Video Power Down Mode

ビデオサブシステムが、一定のシステム停止期間後に移行する、省電力モードを指定します。

- ・ Disabled
- ・ Suspend

Hard Disk Power Down Mode

ハードディスクドライブが、一定のシステム停止期間後に移行する、省電力モードを指定します。

- ・ Disabled
- ・ Suspend

Suspend Time Out (Minute)

操作しない場合に、サスペンドモードに移行するまでの時間を設定します
(Windows 95 のみ有効)

サスペンドモードでは、消費電力が大幅に節約されます。

- ・ Disabled
- ・ 1
- ・ 2
- ・ 4
- ・ 8
- ・ 10
- ・ 20
- ・ 30
- ・ 40
- ・ 50
- ・ 60

Modem Use IRQ

モデムが使用する IRQ と同じ IRQ を選択します。

- ・ N/A
- ・ 3
- ・ 4
- ・ 5
- ・ 7
- ・ 9
- ・ 10
- ・ 11

Primary Master IDE Access / Secondary Master IDE Access

[Monitor] に設定された場合、そのデバイスへのアクセスがあるときには省電力モードに移行しません。

- ・ Ignore
- ・ Monitor

Power Button Function

電源スイッチの用途を設定します (Windows 2000 では、システム上で設定するため、本設定は無効となります)。 [ON/OFF] に設定された場合、電源スイッチを押すことにより、システムの電源のオン・オフが可能になります。

[Suspend] に設定された場合は、電源スイッチを押すことにより、Windows 98 / 95 起動時にはシステムがサスペンドモードに移行します。電源スイッチを 4 秒押し続けると、システムの電源が切れます。

- ・ On/Off
- ・ Suspend



お願い

- ・ Windows NT モデルの場合は、Suspend には設定しないでください。

Restore on AC/Power Loss

電源の不具合によりシステムがシャットダウンした場合、電源が復帰した後にシステムを、パワーオンの状態に戻す設定が可能です。

- Off
- Last State
- On

Ring Resume From Soft Off

シリアル Ring Indicator (RI) ラインの入力 (モデムへの入電) シグナルで、システムを省電力モードから、通常の状態に戻します。

- Disabled
- Enabled

LAN Resume From Soft Off

(WOL コネクタを介した) LAN カードからの入力シグナルで、システムを省電力モードから、通常の状態に戻します。

- Disabled
- Enabled

PME Functions Support

PCI カードからの入力シグナルで、システムを省電力モードから通常の状態に戻します。

- Disabled
- Enabled

RTC Alarm Resume From Soft Off

[Enabled] に設定された場合、省電力モードの状態から、通常の状態に戻すまでの時間を設定できます。

- Disabled
- Enabled

RTC Alarm Date

[RTC Alarm Resume From Soft Off] が、[Enabled] に設定されている場合、アラームが開始する日を設定できます。

- 1, 2, ..., 31 day
- Every Day

RTC Alarm Hour

[RTC Alarm Resume From Soft Off] が、[Enabled] に設定されている場合、アラームが開始する時間を設定できます。

- 0, 1, 2, ..., 23 hours

RTC Alarm Minute

[RTC Alarm Resume From Soft Off] が、 [Enabled] に設定されている場合、アラームが開始する分を設定できます。

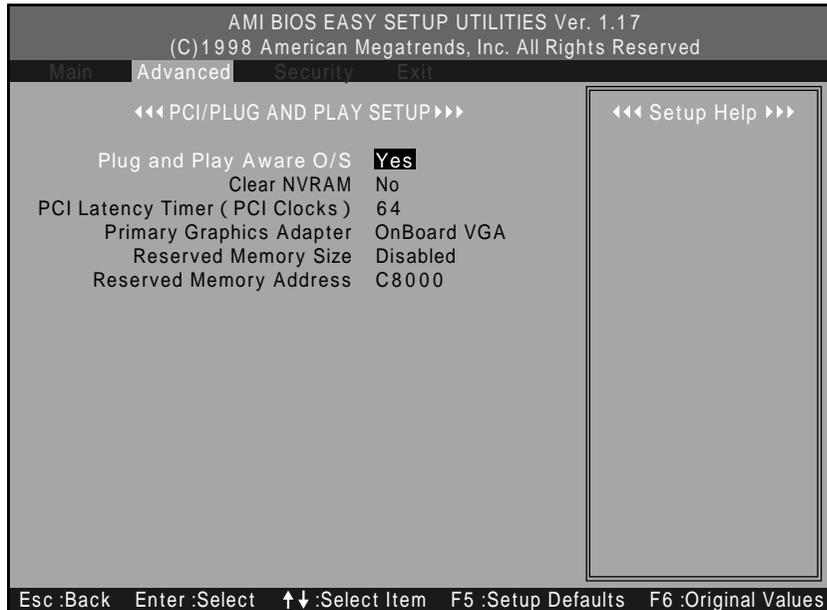
- ・ 0, 1, 2, ..., 59 minutes

RTC Alarm Second

[RTC Alarm Resume From Soft Off] が、 [Enabled] に設定されている場合、アラームが開始する秒を設定できます。

- ・ 0, 1, 2, ..., 59 seconds

PCI/PLUG AND PLAY SETUP



(注)画面は一例です。

Plug and Play Aware O/S

[No] に設定すると、BIOS がデフォルトのリソースの割り当てを行います。
[Yes] に設定すると、BIOS は最低限のリソースのみ割り当てを行います。
この項目は、Windows 98 / 95 モデルでは [Yes] に、Windows 2000 / NT モデルでは [No] に設定されています。



お願い

・ Windows NT モデルでは、必ず、[No] に設定してください。

- ・ No
- ・ Yes

Clear NVRAM

[Yes] に設定すると、NVRAM の内容を初期化します。

- ・ No
- ・ Yes

PCI Latency Timer (PCI Clocks)

すべての PCI デバイスの要求待ち時間を設定します。ユニットの設定は、PCI クロックと等しくなります。

- ・ 32
- ・ 64
- ・ 96
- ・ 128
- ・ 160
- ・ 192
- ・ 224
- ・ 248

Primary Graphics Adapter

本体内蔵のグラフィック機能を標準にするか、PCI グラフィックカードを標準にするかを設定します。

- ・ Onboard VGA
- ・ Add-on VGA

Reserved Memory Size

拡張カードの BIOS のために、メモリの予約を行う場合のサイズを指定します。

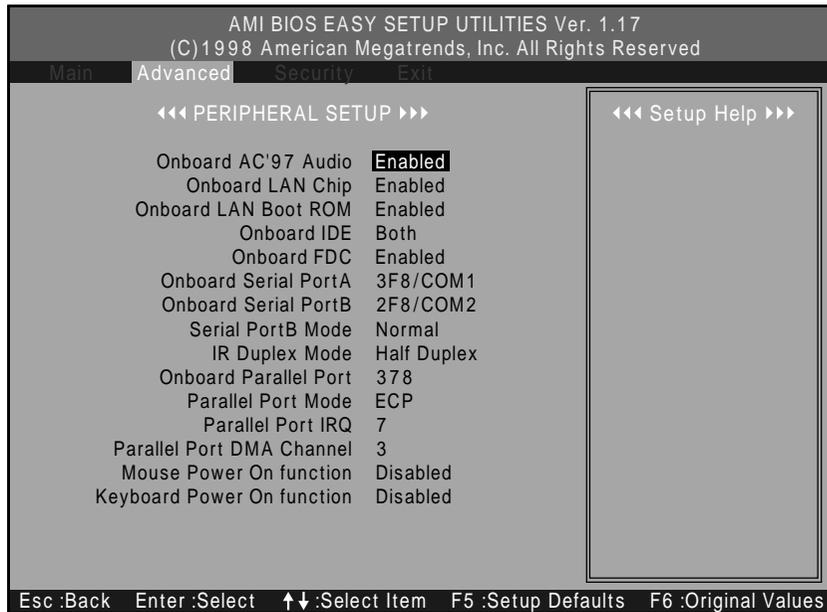
- ・ Disabled
- ・ 16k
- ・ 32k
- ・ 64k

Reserved Memory Address

拡張カードの BIOS が使用するメモリのアドレスを指定します。

- ・ C0000
- ・ C4000
- ・ C8000
- ・ CC000
- ・ D0000
- ・ D4000
- ・ D8000
- ・ DC000

PERIPHERAL SETUP



(注)画面は一例です。

Onboard AC'97 Audio

メインボードのオーディオコントローラを使用可能にします。

- Enabled
- Disabled

Onboard LAN Chip

メインボード上の LAN コントローラを使用可能にします。

- Enabled
- Disabled

Onboard LAN Boot ROM

内蔵 LAN のブート ROM を使用するかどうか設定します。

[Disabled] に設定した場合、ネットワーク経由の起動はできなくなります。メモリアドレス C0000 から DFFFF の領域内の空きエリアは増えます。

- Enabled
- Disabled



メモ

• [Disabled] に設定した場合でも、内蔵 LAN によるネットワーク接続や Wake On LAN 機能は使用できます。

Onboard IDE

PCI ローカルバスの IDE コントローラを設定します。

- Disabled
- Primary
- Secondary
- Both

Onboard FDC

メインボードのフロッピードライブコントローラを使用可能にします。

- Disabled
- Enabled

Onboard Serial Port A

メインボードのシリアルポート A を使用可能にし、ベースアドレスを指定します。

- Disabled
- 3F8/COM1
- 2F8/COM2
- 3E8/COM3
- 2E8/COM4

Onboard Serial PortB

メインボードのシリアルポート B を使用可能にし、ベースアドレスを指定します。

- Disabled
- 3F8/COM1
- 2F8/COM2
- 3E8/COM3
- 2E8/COM4

Serial PortB Mode

シリアルポート B の操作モードを設定します。

COM2 を赤外線ポートではなく、シリアルポートとして使用する場合は、Normal (標準値) の設定を変更しないでください。

- Normal
- IrDA

IR Duplex Mode

Serial PortB Mode で [IrDA] を選択すると、画面に表示されます。

二重通信のモードを設定します。

- Half Duplex
- Full Duplex

Onboard Parallel Port

メインボードの平行ポートを使用可能にし、ベースアドレスを指定します。

- Disabled
- 378
- 278
- 3BC

Parallel Port Mode

平行ポートのモードを設定します。

- Normal
- Bi-Dir
- EPP 1.9
- EPP 1.7
- ECP

Parallel Port IRQ

平行ポートのIRQを設定します。

- 5
- 7

Parallel Port DMA Channel

平行ポートのDMAチャンネルを設定します。

- 0
- 1
- 3

Mouse Power On function

マウスから電源を入れる機能を設定します。

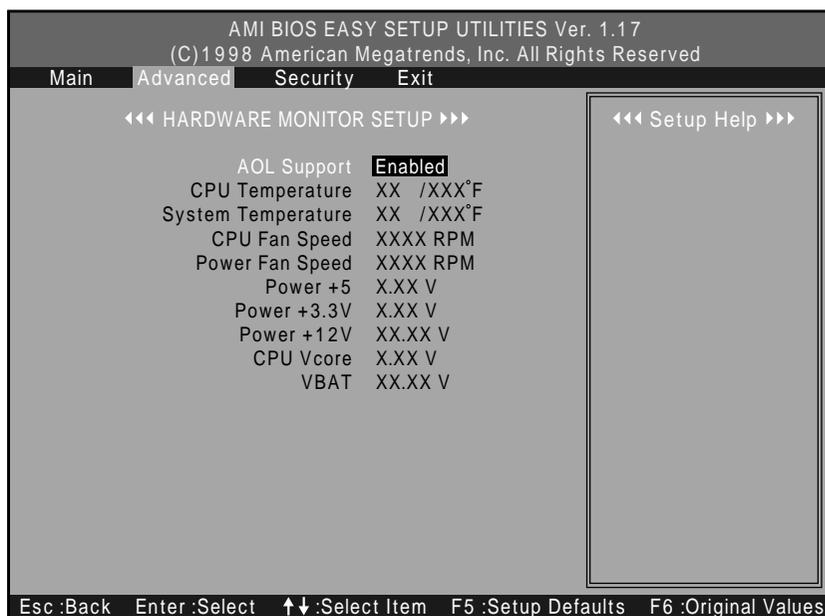
- Disabled
- Double Click

Keyboard Power On function

キーボードから電源を入れる機能を設定します。

- Disabled
- Specific Key
- 98KB (Power)
- 98KB (Wake)

HARDWARE MONITOR SETUP

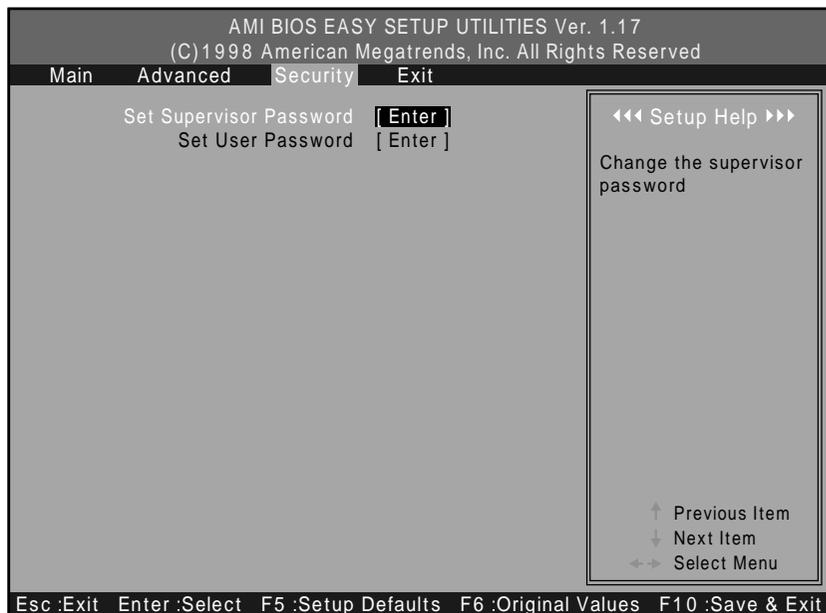


(注) 画面は一例です。

AOL Support

AOL (Alert On LAN) の機能を設定します。

- Disabled
- Enabled



(注) 画面は一例です。

● パスワードの設定

管理者パスワードとユーザパスワードを設定することができます。

パスワードが必要な場合は、パスワードを入力する画面が表示されたときに **[Enter]** キーを押します。

ユーザパスワードを設定した場合、ユーザパスワードでの起動時に BIOS セットアップにて設定できる項目が制限されます。

キーボードからパスワードを登録することができます。[Supervisor] か [User] を選択すると、BIOS がパスワードを入力するように指示してきます。ユーザパスワードを設定する前に管理者パスワードを設定しなければなりません。1文字から6文字までのパスワードを設定します。キーボードから入力しているとき、入力した文字は表示されません。

● パスワードの変更

パスワードを入力し、**[Enter]** キーを押します。新しいパスワードを入力し、すぐに同じ新しいパスワードを再び入力してから **[Enter]** キーを押します。2度目に違うパスワードを入力すると、エラーメッセージが表示されます。

Set Supervisor Password

管理者パスワードの設定および変更を行います。

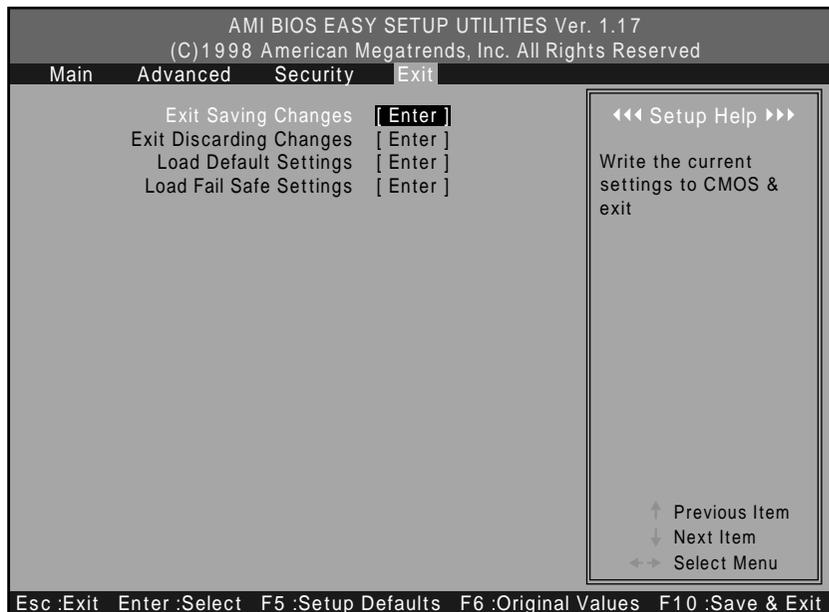
Set User Password

ユーザパスワードの設定および変更を行います。



お願い

- ・パスワードを登録する場合は、忘れないように必ずパスワードを控えてください。
- ・パスワードは表示されませんので、確認することはできません。
- ・パスワードを忘れてしまった場合、同梱の『保守サービスのご案内』をご覧ください。パスワードの解除は有償で行なっています。また、そのとき身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。



Exit Saving Changes

CMOS に新規設定を書き込み、終了します。

Exit Discarding Changes

CMOS に新規設定を書き込まずに、終了します。

Load Default Settings

BIOS のデフォルト設定に戻します。

本メニューを選択後、ご使用のモデルの工場出荷時の設定に変更してください。

☞ 工場出荷時の設定値 ☜ 「本章 7 工場出荷時の設定値」

Load Fail Safe Settings

コンピュータが起動しない場合、この選択肢を選び、コンピュータが起動した後で起動できなかった原因を突き止めます。

この設定はあまりおすすめできません（最良の設定ではありません）。

7 工場出荷時の設定値

項目の設定については各メニューの詳細をご覧ください。

[Security] メニュー、[Exit] メニューには工場出荷時の設定値はありません。

Main メニュー

Mainメニューの項目		Windows 98 / 95	Windows NT / 2000
System Date		-	
System Time		-	
Floppy Drive A		1.44MB	
Primary IDE Master	IDE Device Configuration	Auto	
	32Bit Transfer Mode	-	
Primary IDE Slave	IDE Device Configuration	Not Installed	
	32Bit Transfer Mode	-	
Secondary IDE Master	IDE Device Configuration	Auto	
	32Bit Transfer Mode	-	
Secondary IDE Slave	IDE Device Configuration	Not Installed	
	32Bit Transfer Mode	-	
Auto-Detect Hard Disks		-	
Boot Sector Virus Protection		Disabled	

Advanced メニュー

Advancedメニューの項目		Windows 98 / 95	Windows NT / 2000
Advanced CMOS Setup	Trend ChipAwayVirus	Disabled	
	Quick Boot	Enabled	
	1st Boot Device	Floppy	
	2nd Boot Device	IDE-0	
	3rd Boot Device	CDROM	
	Try Other Boot Devices	Yes	
	Initial Display Mode	Silent	
	Floppy Access Control	Read-Write	
	S.M.A.R.T. for Hard Disks	Enabled	
	BootUp Num-Lock	On	
	Floppy Drive Seek	Disabled	
	Primary Display	VGA/EGA	
	Password Check	Setup	
	Boot To OS/2 > 64MB	No	
	CPU Serial Number	Disabled	

Advancedメニューの項目		Windows 98 / 95	Windows NT / 2000
Advanced Chipset Setup	USB Function	Enabled	
	USB Keyboard Legacy Support	Disabled	
	CAS# Latency (SCLKs)	3	
	Graphics Mode Select	UMA 1MB	
Power Management Setup	ACPI Standby State	S1/POS	
	Power Management/APM	Enabled	
	Video Power Down Mode	Suspend	
	Hard Disk Power Down Mode	Suspend	
	Suspend Time Out (Minute)	20	Disabled
	Modem Use IRQ	N/A	
	Primary Master IDE Access	Ignore	
	Secondary Master IDE Access	Monitor	
	Power Button Function	Suspend	On/Off
	Restore on AC/Power Loss	Off	
	Ring Resume From Soft Off	Disabled	
	LAN Resume From Soft Off	Disabled	
	PME Function Support	Disabled	
	RTC Alarm Resume From Soft Off	Disabled	
	RTC Alarm Date	-	
	RTC Alarm Hour	-	
	RTC Alarm Minute	-	
RTC Alarm Second	-		
Plug and Play Setup	Plug and Play Aware O/S	Yes	No
	Clear NVRAM	No	
	PCI Latency Timer (PCI Clocks)	64	
	Primary Graphics Adapter	OnBoard VGA	
	Reserved Memory Size	Disabled	
	Reserved Memory Address	-	
Peripheral Setup	Onboard AC'97 Audio	Enabled	
	Onboard LAN Chip	Enabled	
	Onboard LAN Boot ROM	Enabled	
	Onboard IDE	Both	
	Onboard FDC	Enabled	
	Onboard Serial PortA	3F8/COM1	
	Onboard Serial PortB	2F8/COM2	
	Serial PortB Mode	Normal	
	IR Duplex Mode	-	
	Onboard Parallel Port	378	
	Parallel Port Mode	ECP	
	Parallel Port IRQ	7	
	Parallel Port DMA Channel	3	
	Mouse Power On function	Disabled	
Keyboard Power On function	Disabled		
Hardware Monitor Setup	AOL Support	Disabled	
Change Language Setting		-	

